



10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[ 36 ]歳、勤続年数[ 18 ]年、現場経験年数[ 17 ]年、階級[ 消防司令補 ]、同様の活動 [ 初めて ]、任務 [ 車長 ]
○当事者B	年齢[ 37 ]歳、勤続年数[ 15 ]年、現場経験年数[ 14 ]年、階級[ 消防司令補 ]、同様の活動 [ 初めて ]、任務 [ 隊員 ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	B隊長	3人の隊員と狭隘部分からの引揚訓練を開始	落差約6m
経過2		かぎ付き梯子を使用したつるべ救助	横さんに支点・支持点
経過3	A隊員	かぎ付き梯子の確保（梯子確保は人力）	トラスなし
経過4	隊員2人	低所に進入し、負傷者救出準備・担架引揚	バスケット担架使用
経過5		低所から担架引揚	B隊長誘導ロープ保持
経過6	A隊員	担架が上部支点付近に来た時バランスを崩す	
経過7		梯子基底部にすくわれる形で転落	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？  
 ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。指揮者が適切に指示しなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

**【事故発生後の取り組みについて】**



**○注意力欠如、焦り等の対策について**

事故の検証～消防局全体。訓練時における安全管理の徹底（通知文）～消防局全体。安全管理研修～消防局全体。

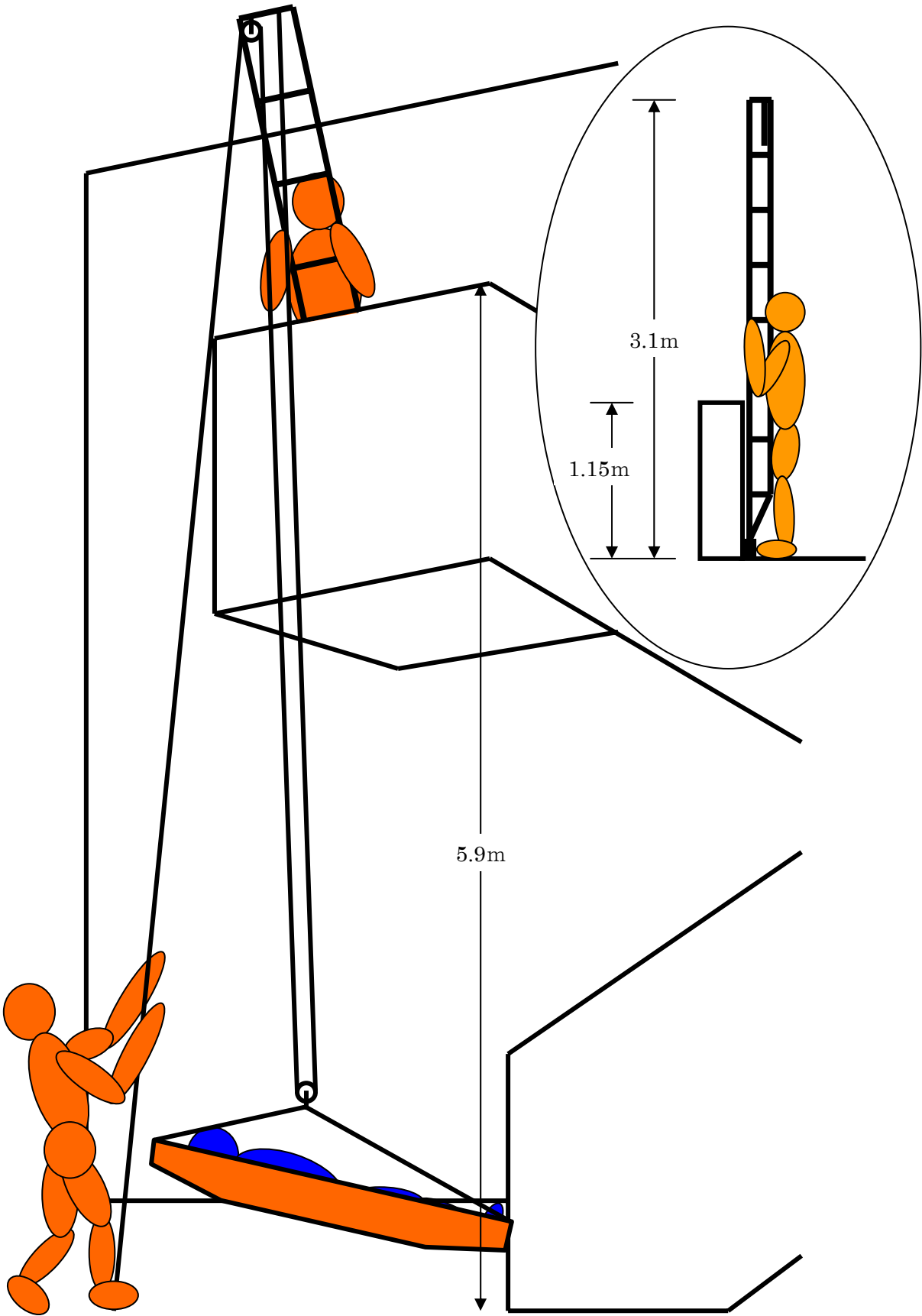
**○装備・資機材の対策について**

消防庁舎を利用した訓練を行うにあたり、高所作業を行う所には、アンカー等を設置し容易に自己確保等が取れるようにした。～消防局全体

**○活動環境の対策について**

救助隊だけが救助訓練を行うのではなく、消防隊・救急隊等できうる限り多くの人員が、安全管理等を担当する。～消防局全体

**○指揮・情報伝達の対策について**



○負傷事例: 救助訓練中、2階屋外階段踊り場から、転落負傷した。  
 (同様の体験は、初めて体験した。)

(08F0010)

・発生日時 : 平成20年2月2日 午前10時頃

経過	現場の状況	当事者A	当事者B	他隊員2名	備考
		車長／消防司令補 ・年齢 36 歳 ・勤続 18 年 ・現場 17 年 ・同様の活動: 初めて	隊員／消防司令補 ・年齢 37 歳 ・勤続 15 年 ・現場 14 年 ・同様の活動: 初めて		
	高所救助訓練				3人の隊員と狭隘部分からの引揚訓練
	かぎ付き梯子を使用したつるべ救助、落差約6m。横さんに支点・支持点。	訓練開始			高所作業時における、転落防止(人・物)措置を怠る。
		かぎ付き梯子の確保(梯子確保は人力)			トラスなし
				隊員2人、低所に進入し、負傷者救出準備・担架引揚	バスケット担架使用
			誘導ロープ保持	隊員2人、低所から担架引揚	
		担架が上部支点付近に来た時バランスを崩す			
		梯子基部にすくわれる形で転落			
		2階屋外階段踊り場から、転落負傷			

◎事故が起きたのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因: 状況判断に問題があった。行動の意志決定に問題があった。
- ・危険情報を把握、予見できなかった。
- ・指揮者が適切に指示できなかった。
- ・他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

◎事故が起きたのはどうしてだと思うか？

- (心理・体調について)
- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
- ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
- ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- (活動環境について)
- ・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。
- ・狭隘な場所であった。
- (指揮・管理について)
- ・隊員の連携が不十分だった。
- ・隊員が不足していた。